

ましまちづくりスクール #02

地域への『愛』が原動力、暮らしから未来を夢想する

暮らしとまちづくり

現場の実態を学ぶ
まち協の現在地
地域オリジナルとは

11/06 水

13:00 ~ 17:00

主催：益城町地域おこし協力隊
：益城町にぎわいづくりWG

田崎眞氏／東無田



古荘 直樹氏 / 櫛島

登壇者プロフィール

東無田復興委員会 代表

田崎 眞一氏 / 東無田

会社員を25年経験後、集落に唯一残る個人商店を経営。熊本地震直後より地元消防団とともに地域の復旧作業に参加。復興委員会結成以後は、祭りの開催や災害の教訓を伝える災害スタディーツアーを企画開催するなど地域復興のため活動。

櫛島地区まちづくり協議会 代表

古荘 直樹氏 / 櫛島

生まれ故郷の櫛島地区でまちづくり協議会の代表として、地域課題の解決に向けた住民主体の活動を実施。「お花見」「防災訓練」など既にあるものにアレンジを加え、地域住民が楽しみながら参加できる取り組みを展開。



意見交換の場 @ 古民家カフェ sala

スタディーツアー @ 東無田

「他所での災害は人ごとだった」とレクチャーを展開する田崎さん。熊本地震前は消極的な関わりだった地域コミュニティへの考え方も、被災後は大きく変わったと当時を振り返ります。地域コミュニティに深く関わるなかで「面倒くさいコミュニティ」は「先代が残した仕掛け」に見え方が変わったと教えていただきました。

また、注目すべきは地域を分析する視点です。地区内人口の推移や、ほか自治体での防災の動き、自治のあり方に明るく、私たちにわかりやすく伝えていただきました。

一方で、地域コミュニティの活発化と防災力向上のつながりについては不透明であるとし、地域運営の課題についても触れています。

東無田スタディーツアーの流れ

田崎さんには、以下の流れでスタディーツアーを実施いただきました。

- 1) 東無田公民館集合
- 2) 集落内を歩く
- 3) 災害公営住宅の紹介
- 4) レクチャー @ 東無田公民館
- 5) 小池台地から集落を眺める

スタディーツアー @ 櫛島

7,300年前から人が住んでいる櫛島地区。古荘さんは、まちづくり協議会会長を務めているなかで、ご年配の住民と30~40代の住民ではまちづくりの意識に違いがあると感じていました。一方で、手



スタディーツアーの様子



まちづくりスクール参加者

に職を持っている人が多い集落だということもわかり、ものづくりの機運も活かし、「復興と言わない」独自の方針で楽しいまちづくりを実践してこられました。

まちづくり協議会の定例会は現在も毎月開催しているとのこと。驚異的なのは、2017年時に県立大学柴田研究室と協働してWSの成果です。丁寧に意見を拾い上げた軌跡が今もなお櫛島公民館に飾られていました。

東無田地区同様に課題はあると伺っています。毎回のイベントは試行錯誤。まずはやってみる！雰囲気地域で醸成されていながらも、手探りな状況は今も変わらないとお話がありましたが、「20年後が楽しくなるならOK」と笑って話す古荘さんが印象的でした。

櫛島スタディーツアーの流れ

古荘さんには、以下の流れでスタディーツアーを実施いただきました。

- 1) 櫛島公民館集合
- 2) 避難広場見学
- 3) 集落内を歩く
- 4) 櫛島プール視察

古民家カフェ sala で意見交換

古荘さんが営む古民家カフェ sala は2023年3月にオープン。全壊の状態から修繕を行い、現在はお洋服の販売とカフェを運営しています。そんな素敵な場で意見交換とふり返りを開催させていただきました。

意見交換のポイントは以下、

Q：どうやって参加を促すのか？

A：高齢者を巻き込んだ活動を実施している

Q：まち協の継続実態

A：自治のシステムと、ソフトの支援にどう向き合うのかが問われている

ほか多数の質問に答えていただき、充実した時間となりました！



スタディーツアー @ 櫛島



小池台地からの風景